

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	807 生涯学習推進啓発事業	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	目	01	社会教育総務費
		細目	431	生涯学習推進事業
行革大綱の重点事項番号		細目	51	生涯学習推進啓発事業
担当部課	コード	450400		担当者氏名
	名称	教育委員会	生涯学習課	
		前出公子	連絡先	22 - 9679 (内線) 3830・3833

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	学習意欲を持つ市民	※対象件数
成果(どうする)	市民の学習意欲に応えることで自己実現が図れる。学習機会が増え、参加者が増加する。また、大学の機関と連携することによって、少ない経費で学習の機会を提供を図る。	
根拠法令・要綱等	社会教育法	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H23 事業内容	市民大学講座の開催 演題 ・近世伊賀における寺院の復興 ・徳(やまと)を支えた伊賀の人々～伊賀国成立の背景を探る～ ・伊賀地域の民俗行事 ・なぜ、あなたは運動をしてもダイエットに成功しないのか?～運動とダイエットの誤解～ ・若い女性のやせと次世代の健康 ・食はこどもの心と体をつくる一家庭での食育～ 生涯学習市民講座 ・おはなし劇場 絵本作家 松本弘子さんのジャンボ絵本読み聞かせと三重の民話の語り聞かせ	
社会情勢の変化等	学習意欲を持つ市民の学習意欲に応えられるよう、交通手段等配慮している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
大学講座(年間6回開催)の開催回数	回	回	目標 6	実績 6	4	4
			目標 6	実績 6		
生涯学習市民講座	回	回	目標 1	実績 1	1	1
			目標 1	実績 1		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
市民大学講座の受講者数	人	自己の教養を高めるための意識としての参加者数を意欲と捉える。	人	目標 260	実績 352	260	200
				目標 140	実績 47	80	80
生涯学習市民講座受講者数	人	テーマを絞って開催し参加者の学習を深める。	人	目標 140	実績 47	80	80
				目標 80	実績 78		

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	331	315	305	305
事業投入人件費(B)		0.3人	0.3人	0.3人	0.3人
フルコスト(A)+(B)		2,635	2,619	2,609	2,609

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○	
大学の機関と連携することにより、ワンランク上の学習の機会を提供しているため、学習意欲のある市民からの要望が強い(出席者へのアンケートによる)。		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高いサービス水準や対象を見直す余地がある。	○
学習意欲のある市民が定着してきている。		
達成度	当初設定した計画を 60%以上80%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	大学との共同事業として実施しており、地域に関連するテーマを取り上げる中で専門ごとの講師を増員し、市民に対し魅力ある講座として開催することで1回あたりの参加者の増加を図
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	22年度は、市民大学講座については、全6回とも日曜日の午後で開催する。会場は、三田の「伊賀上野交流研修センター」で開催する。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	市民大学講座の会場は、伊賀上野交流研修センターで実施された。受講者のアンケートからは継続の要望が強い。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	児玉 泰清
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	市民大学講座については、参加者のアンケート結果から継続の要望が強くあるため、市民が生涯を通して学習できる機会を作る。また、講座内容については、市民の方が興味をもつような地域に密着した身近なテーマを考える。
現時点における課題、その他	・公共交通機関を利用しやすく、駐車場がある会場を活用する必要がある。 ・地域公民館と連携を行い市民への周知、事業運営を推進する必要がある。 ・開催日程を、市民の方が参加しやすい日、時間帯に設定する必要がある。
課題、その他に対する改善策	大学講座では、誰でも参加できるように、公共交通機関の利用し易い会場を使用し、週休日の昼間を活用して開催する。受講者の満足度評価(参加者に対するアンケート調査)を基に市民に身近なテーマを選択し、学習意欲の定着を図っていく。 公民館担当者等と打合せ会を行い、市民への事業周知の強化、地域事業との調整を行う。
(いつまでに、何を、どうする)	